サンパウロ大学への協定派遣（交換留学）　月例報告書（9 月分）

ブラジルに到着してから 2 ヶ月が経ちました。本当に時の流れがはやすぎて、日々を大切に過ごさなければならないなと感じます。今回は履修している授業や、日常生活について書きます！

【学業について】

USP（サンパウロ大学）では主に午前、午後、夜間の 3 つの時間帯で授業が行われます。学部・科目・教員・学生の都合によって、どの時間帯で授業があるかが決まります。一番早い授業は 8：00～10：00、一番遅い授業は 21：00～23：00 と、振り幅がとても大きいです。最初は 1 コマ 2 時間と表記されていてびっくりしましたが、実際は 90～100 分で終わることが多いです。また、出席の基準もあり、多くの学部で 75%程度の出席が求められる規則があります。

私が履修している科目は次の 4 つです；

①Língua e Cultura Brasileira para intercambistas internacionais na USP
（留学生のためのブラジルの言語と文化）　→これのみ週 2
②Aspectos da Cultura BrasileiraⅡ
（ブラジル文化の諸相Ⅱ）
③Tópicos de Língua e Cultura
（言語と文化に関する諸トピック）
④Psicolingüística
（心理言語学）

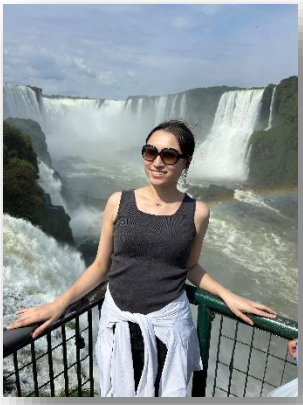
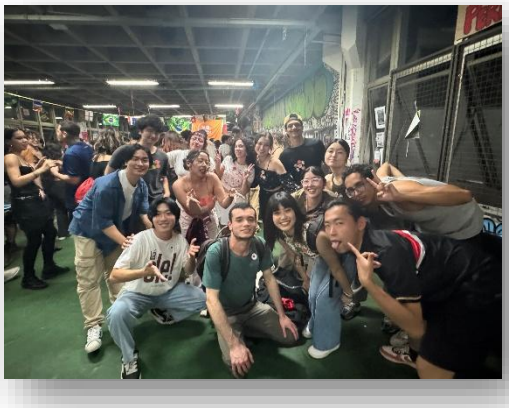
①と②は完全に留学生向けの授業です。①はポルトガル語の勉強がメインで、論文を読んだり、ワークシートや問題を解いたりします。それに比べて②は、毎回違う先生が来て、ブラジルについての何かしらのテーマについて講義をするという形式です。地域格差問題や人種差別問題、歴史や詩などについての授業がありました。これは留学生向けとはいえ、ほとんど先生方の喋りが速いポルトガル語なので、難しいです。

③の授業は基本的に英語で行われ、内容は文化人類学に近いです。内尾先生の授業を受けたことがある方は、想像がつきやすいです。こちらも毎回違うテーマを扱い、いつも考え方が変わるきっかけをもらっています。

④はこの中で一番難しいと感じる授業です。人間がどのように言葉を理解し、話し、習得するのかについて学びます。子どもの言語習得過程、脳や記憶とことばの関係などを扱っています。難しい専門用語ばかりですが、とても面白いです。

【生活について】

まず９月は独立記念日で最初の一週間が休みでした。これは遠出するいい機会だと思い、ブラジル南部パラナ州にある、「イグアスの滝」に行きました。こちらは 2011 年に「新世界七自然景観」のひとつに選ばれ、「世界三大瀑布」のひとつとしても有名な滝です。また、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの国境が合流する地点、「三国国境」も行きました。サンパウロからは少し遠いですが、忘れられない経験になったのでおすすめです。

私の日常生活について話します。大学で講義があるのは、月・水・金の三日間です。USP には主に 3 つの主要な出入り口（門）があり、Portão1,2,3 があります。キャンパスは非常に広いため、どの学部に行くかによって使う門が異なります。私は Portão3 の近くに住んでおり、そこから学内バスに乗って、FFLCH（哲学・文学・人文科学部）の建物に着くまで約 30 分かかります。また、授業の前後で、友達やほかの留学生と Bandejão（学食）で昼食や夕食をとります。授業がない日でも食べに行くことで、食費をとても節約することができます。

休日は毎週の課題や論文を読むことに多くの時間を使っていますが、9 月は特に出かけることが多くありました。パラナ州とサンタカタリナ州を訪れたり、フェスやイベントに行ったり、サンバ学校の見学をしたり、同じマンションに住んでいる方のシュラスコパーティーにも呼んでもらいました。特に印象的だったのは、クリチバ市で 15 年ぶりに幼なじみの男の子やその家族と再会したことです。小さい頃は日本でよく一緒に遊んでいましたが、幼なじみがブラジルに移住してからは会えていませんでした。幼なじみの友達数人とも仲良くなり、また何回か訪問する予定を立てたり、年末年始を一緒に過ごそうと提案してくれたりしました。よそ者の私にとても優しく接し、日本についても興味を持ってくれる姿に、ブラジル人の温かさと寛大さを改めて感じました。ブラジルでの出会いは、私にとってかけがえのない学びとなりました。